

令和4年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	2907	領域略称名	ハイブリッド触媒
研究領域名	分子合成オンデマンドを実現するハイブリッド触媒系の創製		
領域代表者名 (所属等)	金井 求 (東京大学・大学院薬学系研究科・教授)		

(評価結果)

A+ (研究領域の設定目的に照らして、期待以上の成果があった)

(評価結果の所見)

本研究領域は、複数の触媒の働きを重奏的に活かした「ハイブリッド触媒系」を用いる有機合成反応開発の新しい学理を構築することを目的とするものであり、入手容易な原料から付加価値の高い有機分子をオンデマンドで合成するための技術開発を目指している。本研究領域が目標とする「分子合成オンデマンド」の達成度や、ハイブリッド触媒の普遍的なコンセプト確立については課題を残すものの、一つの触媒だけでは進行しないような反応や選択性の制御を実現する極めて独創的な触媒系の開発に成功し、多くの分野にインパクトのある重要な基礎的知見が数多く産み出されたことは疑いようもない。中でも、本質的に発生や制御が難しいラジカル種を生成させるハイブリッド触媒系に関わる重要な成果と開発指針を打ち出した点は特筆に値する。

中間評価結果の所見において指摘された共同研究の推進については、国内外の研究機関との間で140件を超える共同研究による成果が発表されたことから、適切に対応されていた。こうした取組が奏功し、900件を超える原著論文が発表された。また、多数の若手研究者の参画、若い世代を中心とした勉強会「若手道場」の開催、若手研究者の海外短期留学・研修支援の実施など、若手育成促進に注力していた点も特筆される。さらに、領域代表者のリーダーシップのもと国内外への成果発信が十分に行われ、国際プレゼンスの向上に大きく貢献した。日本が世界をリードしている触媒研究の国際的優位性向上の観点からも、より一層の発展が期待される。